

近處の娘に。——柔順な妻も遠に、うんとは云はなかつた。

啓吉は、彼女に對する最後の好意として、中元の大賣出しがあつたのを幸に、安い羽二重の片側と裏とを買つてやつた。それは、彼女が出立する朝だつた。彼女は嬉しがりながら、それを大車輪で、半日の裡に縫ひ上げた。

「まあ！ お岸さんにばかり買つてあけるの」

妻は、初めて不平を云つた。

「いゝぢやないか。俺をはる／＼慕つて來たのだもの、出来る丈のことはしてやつたつて」

啓吉は、心の裡でも、さう思つて居た、自分に對して、兎に角にも興味を持つて呉れた最初の——同時に最後かも知れない女に、この位なことをしてやるのは當然だと思つて居た。

彼女が出發するとき、啓吉はわざと、見送りに行かなかつた。妻が、啓吉の家によく出入する男の子と一緒に見送りに行つた。啓吉は、自分で見送りに行つて、赤倉へでも行きたくなるやうな執着を残すことを恐れて居たから。

赤倉から、彼女は一度電報で、啓吉に來ることを促した。手紙も二三本よこした。

啓吉の誘ひの誘ひが、啓吉は最初から行くつもりではなかつた。その裡に、避暑の季節は過ぎた。彼女からの消

息も絶えた。もう赤倉に居るのか、どうかさへ分らなくなつた。

十月には入つてからの頃だつた。啓吉は、帝劇の廊下でひよつくり、舊友の法學士に會つた。彼は啓吉の顔を見ると思ひ出したやうに云つた。

「さう／＼君に會つたら、話さうと思つて居た。今年の夏、僕は赤倉温泉で君を知て居ると云ふ女に會つたぜ」

啓吉は、直ぐ思ひ當つた。

「あゝさうか、お岸さんと云ふ女だらう」

「いや、さうぢやなかつたよ。何とか房子とか云つて居たぜ、何だか東京へ行つて、君に着物なんか、こさへて貰つたさうで、君とお安くなかつたんだと云ふやうな評判が立つて居たぜ。君も、随分變つたもんだね」

さう云つて、友人は啓吉の肩を叩いた。

啓吉は苦笑した。が、啓吉の彼女に對する氣持などは、説明しても、普通人には分るまいと思つたから、それを甘受した。

「一體あの女は、赤倉ぢや何をして居るんだい」

啓吉は、それを本當に知りたかつた。

「よくは、知らないが、あまり評判はよくなかつたぜ。避暑客相手の高等淫賣ぢやないかと云ふ噂があつたぜ」

「さうかねえ。僕も少し變だと思つて居たよ」

啓吉は、友人の手前、口でさう答へたけれども、心の裡では砂を噛み潰したやうなイヤな氣がした。

幕が開いた後も、彼は喫煙室に残つて、考へて居た。高等淫賣——純眞な愛讀者。そんなことを考へると自分の彼女に對したプラトニックな態度などが、忽ちにして、一個のカリカチュアになり了るのを感じた。彼は、暫らくの間、頭の中で幻滅の苦さを、噛みしめて居た。

啓吉が、相手が何であらうとも、自分に對して純眞な愛讀者として近寄つて來た以上、それを純眞な愛讀者として扱ふことは當然な正しいことだと思つた。たとひ、他人から見れば、それが高等淫賣に弄ばれたことにならうとも。

啓吉が、啓吉は不快な幻滅に堪へながら、彼女が果して、そんな卑しい女かと、心の底から考へ直感して見た。

その時にふと、彼女が神樂坂の本屋の店頭で、啓吉の創作集を見付けると、
 「あら！先生の御本がありますわ！」
 と、叫びながら、とんと勢よく突いた姿を思ひ出した。ワイルドであるけれども、純真な彼女の姿が、マザ／＼と啓吉の頭の中に浮かんで来た。それは、愛読者の面を被つた高等淫賣などには、逆さまになつても出来ない事のやうに、啓吉には思はれた。
 さう思ふと、啓吉ははれ／＼と、救はれたやうな氣持がした。彼女の「淨い記憶」は、自分の頭の中文では、永久に汚されずに残るだらうと、啓吉は思つた。

大正十一年五月十九日印刷
 大正十一年五月廿二日發行



印者作著

◇圖書目錄進呈……往復葉書御申越次第……春陽堂

菊池寛全集 第四卷 定價金貳圓五拾錢

著 者 菊 池 寛

發 行 者 和 田 利 彦

印 刷 者 土 谷 清 隆

印 刷 所 株式會社 博文館印刷所

東京市小石川區久堅町百八番地

發 行 所 春 陽 堂

東京市日本橋區通り四丁目五番地

電話一六一七、電報本局五一

小 說 書 類

小山内薫作	大川端	(長篇作)	壹圓三十錢
久米正雄作	螢草	(同)	貳圓四十錢
鈴木三重吉著	桑の實	(同)	金九十二錢
永井荷風作	おかめ笹	(同)	壹圓八十錢
谷崎潤一郎著	女人神聖	(長短篇集)	壹圓七十錢
田山花袋著	女の留守の間	(同)	壹圓八十錢
同	燈影	(長篇作)	壹圓八十錢
同	一兵卒の銃殺	(長篇作)	壹圓八十錢
同	河ぞひの春	(同)	壹圓八十錢
谷崎潤一郎著	あつもの	(長篇作)	九十五錢

小 說 書 類

國木田獨步著	運命	(長短篇集)	壹圓三十錢
田山花袋著	田舎教師	(長篇作)	壹圓三十錢
同	二つの生	(長篇集)	金參圓
同	心の園	(同)	參圓三十錢
同	赤い實	(短篇集)	參圓二十錢
同	髮	(長篇作)	金貳圓
森林太郎著	高瀬舟	(長短篇集)	壹圓八十錢
島崎藤村著	山房札記	(同)	壹圓八十錢
同	櫻の實の熟る時	(長篇作)	壹圓二十錢
谷崎潤一郎著	人魚の嘆き	(長短篇集)	壹圓五十錢

小 說 書 類

長興	善郎著	或る人々	(長篇作)	定價金參圓
里見	葎著	毒草	(短篇集)	送料四十二錢
豐島與志雄	著	未來の天才	(同)	送料四十二錢
菊池	寛著	極樂	(同)	送料四十二錢
久米	正雄著	弱き心	(同)	送料四十二錢
有島	生馬著	死ぬほど	(長篇作)	送料四十二錢
有島	生馬著	鏡中影	(長短篇集)	送料四十二錢
江口	渙著	惡靈	(同)	送料四十二錢
細田	民樹著	極みなき破局	(長篇作)	送料四十二錢
志賀	直哉著	荒絹	(長短篇集)	送料四十二錢

505

23

終